図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉　おしらせ No. 213　　2022・05・25

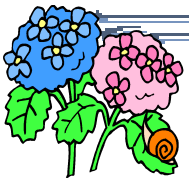
低く居て富貴をたもつ牡丹かな

―炭 太祇―

鎌倉市の図書館は
5 月の半ば過ぎから 5 月 31 日まで、
順次整理休館に入っています。
図書館も衣替え？
この機会に、少し遠い地域の図書館へ
足を延ばしてみてはいかがでしょう。

○ CONTENTS ○　PAGE

☆ 鎌倉市中央図書館新館長ご挨拶　栗原章郎 ･･･1
☆ 今年もファンタスティック☆ライブラリーが開催されました ･･･2
☆ 第4回ファンタスティック☆ライブラリー110 実行委員会報告 ･･･4
☆ 松坡先生をめぐる人々6 比田井天来・小琴　袴田潤一 ･･･5
☆ 図書館協議会傍聴報告 ･･･6
☆ TOTOMO 関連の雑誌記事紹介 ･･･7
☆ 鎌倉市図書館振興基金の最近の活用及び公開について ･･･8
中央図書館　中田孝信
☆ 映画と本と図書館と/ 銀幕情報　田邊恵美 ･･･10
☆ ボラ協報告/協働事業推進部会報告/活動日誌 ･･･11
☆ 事務局から ･･･12



新館長ご挨拶

鎌倉市中央図書館長　　栗原章郎

栗原章郎新館長

はじめまして。中央図書館長の栗原章郎です。今、図書館では、コロナ禍の対応で、本を貸し出す時に冊数の制限をしていません。この張り紙を見て、小学生の頃を思い出しました。その頃、冊数制限はなく、借りたいだけ借りられました。図書館へ来ては、そんなに？と思われるほどの本をカバンに詰め込んで、わくわくして帰りました。図書館は宝の山、毎日のように通っていました。時代は平成に変わり、その図書館に、今度は子どもと行くのが生活の一部になりました。建物は、多少歳を取りましたが、その中では、図書館サービスや企画など、通うたびに新しい発見がありました。そして、時代は令和、おどろいたことに図書館長です。これまでは、利用者として外から見ていましたが、今は、図書館職員が熱意を持って日々の業務に取り組んでいる姿を目の当たりにしています。鎌倉市図書館サービス計画、鎌倉市子ども読書活動推進計画の改定、読書バリアフリー法を踏まえた障害者サービスの検討等々、やることがいっぱいあります。「つながる　ひろがる　100 年図書館」として、これからも市民の皆様に身近な図書館であり続けられるよう職員と一丸となって取り組んでまいります。そして、なにより、これまで、図書館とともだち・鎌倉の皆様におかれましては、様々な場面で賜りましたご支援を感謝しますとともに、図書館の未来に向けて、これからも変わらぬお力添えを心からお願いいたします。

今年もファンタスティック☆ライブラリーが開催されました。TOTOMO 主催の企画は２つ。ご紹介します。

間島弟彦生誕 150 年記念「間島夫妻の事跡を辿る」報告

中央図書館での展示

「間島夫妻の事跡を辿る」ための地図を作成しました！

今年は「間島弟彦・間島愛子夫妻　旌徳の会」にとり 2 回目となるF☆Ｌへの参加です。メンバーで検討を重ね、テーマは**「間島夫妻の事跡を辿る」**と決まりました。夫妻ゆかりの事跡である、旧鎌倉図書館、寿福寺、英勝寺、鎌倉国宝館、白水荘跡などの場所を分かりやすく落とし込んだ全紙大の地図が展示のメインとなります。

そして今回は、初めて YouTube 配信用のビデオ撮りに挑戦しました！スマホを駆使し、それぞれの展示パネルを大きく映し出しながら説明の声を入れていきます。慣れない作業に四苦八苦しましたが、リハーサルを重ねに重ね（！）何とか 7 分間弱の映像が形になりほっとしました。期間中アクセス数が気になったのも生みの苦しみがあったためでしょうか？

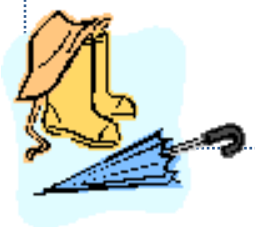
期間中、市内 5 つの図書館を巡回する展示を追いかけて見ていきました。脇に並べられた参考図書や、工夫を凝らした丁寧な飾りつけに各館それぞれの個性が表れ、改めて司書さんたちの高い専門性に敬意を抱くと同時に熱い意欲を感じました。市民と図書館の協働による図書館まつりの醍醐味のひとつだと思います。

パネルのデザイン・構成はメンバーの平塚さん。作成は図書館職員とメンバーが共に携わりました。ビデオ版ギャラリートークは、カラオケで鍛えた（？）平塚さんの渋い声が響き、納得の出来上がりとなりました。

（阿曾千代子）

深沢図書館での展示

腰越図書館では１階の行政センターのフロアで展示



おはなしひこうせん参加報告
「あんな絵本、こんな絵本ｉｎ鎌倉」

図書館とともだちの絵本の勉強会グループおはなしひこうせんは、毎年恒例行事のひとつとしてファンタスティック☆ライブラリーに参加させていただいています。

私、昨年は諸事情により参加できず、一年ぶり。少々とまどいながらもどうにかとり組むことができました。

メンバー8 人がそれぞれの思いでお気に入りの鎌倉ゆかりの絵本作家さんについて調べてプレゼンテーション！！

絵本の写真入り（著作権の関係で表紙画のみ使用させていただきました。各自出版社に確認しています。）レイアウトを考えパソコンを駆使して・・・。私は毎年ワンパターンのアナログおばさんです。ほぼ手書き！

案外と知られていない鎌倉ゆかりの絵本作家さんたち！

「あんな絵本、こんな絵本ｉｎ鎌倉」それぞれの感想は、

タウンニュースで取り扱っていただきうれしかった。また、たまなわ新聞（ASA 大船西部発行の朝日新聞地域情報誌）にも紹介されていました。うれし～い！

ファンタスティック☆ライブラリー展示の場所、方法、仕方にそれぞれの図書館でとても良かったところ、工夫されていたところなど差があった。

以前は設えてあった、ファンタスティック☆ライブラリーが開催されていますよ、的な横断幕ないしは掲示板みたいなものが、なぜなかったのか？案内板（指示矢印）なども設置してほしかった。図書館任せにしてしまったのが原因でしょうか？

鎌倉ゆかりの素晴らしい絵本作家の方々をより多くの人達にもっと知っていただけたらうれしいと思いました。

プレゼンしたポスターの側には、その作家さん達の絵本が並べられ、それらをかなり多くの方が借りてくださいました。

またこのコロナ禍で大変な時期に図書館の貴重なスペースをお借りしてできたこと、とても感謝いたします。

ブックリストに添えて鎌倉の図書館に蔵書されている中からみつけて展示していただき誠にありがとうございました。

また来年は、違うテーマで絵本と児童書の紹介をさせていただきたいと思います。次回は、おはなし会を復活させたいと思っています。　（吉山京子）

←上から、長野ヒデ子さん、飯野和好さん、中川ひろたかさん、伊藤正道さんと西巻茅子さん、和歌山静子さん、せなけいこさん、角野栄子さん、ささめやゆきさんのプレゼンポスター。
ポスターは TOTOMO の HP,並びに鎌倉市図書館の HP にも掲載されています。どうぞご覧ください！！

第４回ファンタスティック☆ライブラリー１１０実行委員会報告

（於：鎌倉市中央図書館　多目的室）

第４回ファンタスティック☆ライブラリー110 実行委員会が４月 27 日（水）14：00～15：30 に３団体６名と図書館員３名の計９名の参加で行われました。今回は２月 11 日（金）～3 月 13 日（日）に開催されたファンタスティック☆ライブラリー110 の反省と次回への話し合いとなりました。

１．各団体の反省及び感想より

各図書館によって展示スペース、パネルのタイプの違いもあり、展示も大変であったと思います。図書館の皆様には心よりお礼申し上げます。どこの館も工夫された展示であり、楽しむこともできましたし、展示本も多くの方が借りてくださっていました。ただ、全体としてもっとお祭り感があっても良いと思いました。一階の行政センターロビーに展示されていた館では、コロナワクチンの接種会場となった日は展示物が片付けられており、とても残念でした。一部でも図書館内に展示していただけたらと思いました。また展示がファンタスティック☆ライブラリーであることの情報を知らせるための案内やチラシのようなものがあると良かったと思います。でも、各団体の発表の場があるのは喜ばしいことです。難しいかもしれませんが、実行委員としてお手伝いできるのであれば、展示作業等にも参加したいという意見もありました。

『「みんなでつくる本」（注）の展示』は、残念ながら全館での展示は叶いませんでした。今後は、本の状態を把握しつつもっとふさわしい展示方法を考えなくてはならないということでした。また、デジタル化の可能性についても話し合われましたが、著作権の問題があるようです。

YouTube 配信についてはいろいろな反省点がありましたが、取り組んだ団体からは「トライしてよかった」との意見でした。

広報に関して「広報かまくら」には、かなりのスペースを与えてもらえました。その他「タウンニュース」や「たまなわ新聞」での掲載も良かったと思います。

（注：図書館１００周年記念事業の時、 TOTOMO が主催した原画展に来場下さった皆様にお名前やメッセージ、絵などを思い思いに書いて（描いて）いただいた本。事業終了後、図書館に寄贈しました）

『みんなでつくる本』より
長尾真国会図書館長(当時)
サインページ

２．令和４年度のファンタスティック☆ライブラリー及び新たな団体の参加について

現在の展示以外の参加方法として、集客が期待できるイベントの開催については、人数制限、時間制限など考えることが多い。体験講座なども一案である。スペースの問題もあるが、５館全館ではなく１日１館その後巡回展示という方法もあるのでは等の意見が出ました。

ファンタスティック☆ライブラリーへの新たな団体の参加を期待するところですが、図書館からは「すぐには難しいかもしれない。若い世代にアピールする必要があるとの意見もあったが、具体的にどうしたらよいか、どのような参加要件とするかなど検討が必要」との声がありました。これからも図書館と一緒に考えていきたいと思います。

令和４年度ファンタスティック☆ライブラリーの開催方法は課題を整理しつつ具体的に進めていくこととなりました。開催時期は３月初めくらいが望ましい、とのことでした。

次回実行委員会は６月９日（木）14：00～15：30　場所は中央図書館多目的室です。

TOTOMO からは阿曾（松坡文庫研究会兼務）、阿部、杉崎、水岡が参加しました。　（水岡やす子）

松坡先生をめぐる人々6　比田井天来・小琴

松坡文庫研究会　代表　袴田　潤一

現代書道の父・比田井天来と松坡先生の交友も大正から昭和の鎌倉の文化に大きくかかわっています。

長野県北佐久郡片倉村（現・佐久市）に生まれた比田井天来（1872～1939 本名は鴻）は 1897（明治 30）年に上京すると、小石川哲学館で漢学を、岡本黄石に漢詩を学び、書は日下部鳴鶴に師事しました。鳴鶴は松坡先生同様、岡本黄石門ですから、鳴鶴、松坡先生、天来は同門、松坡先生は鳴鶴に書を学びましたので、松坡先生と天来はやはり同門ということになります。松坡先生と天来との交友は天来の上京直後から始まったと思われます。1917（大正 6）年 5 月に鳴鶴の傘寿を記念して、鳴鶴を会頭とする「大同書会」が結成されると、天来はその経営者となり、幸田露伴、犬養毅、中村不折らといった執筆陣のもと雑誌『書勢』を発刊しました。同誌の漢詩欄「滄海拾珠」の選者を務めたのが松坡先生でした。翌年、天来が鳴鶴との構想であった「書道館」（後の書学院）建設に着手すると、松坡先生はその支援に奔走します。徳富蘇峰宛の松坡先生の書簡（1918.7.15 付）には、次のようにあります。

友人比田井鴻、號天來ハ日下部鳴鶴翁ノ社中ノ書家ニ有之。信州人ニ御座候。豫々一六・鳴鶴二翁共ニ着目致居候書道篤学者ニ御座候。今回別封差出候書道館設立ノ企畫有之候ニ付、先生ニ是非御賛成相願度トノ趣意ニ御座候。人物恬澹快活ニシテ高潔、近世珍敷書家ト被存候。…（中略）…今回ノ挙ニ付テハ、崔翁（＝鳴鶴）モ頗カヲ入レ居候。其他、松方・樺山諸公賛成ニ御座候間、決シテ御迷惑ノ儀無之ト存候。右願上候。

松坡自身親しかった松方正義や樺山資紀の名を挙げて、天来への支援を懇請していますが、「書学院設立趣旨書」には松方、樺山両氏の他に犬養毅、大谷光瑞、嘉納治五郎、後藤新平、三島毅（中洲）、釈宗演などが名を連ねています。天来の努力が実り、代々木南山谷に書学院が創設されたのは 1930（昭和 5）年のことでした。その間、1922（大正 11）年に日下部鳴鶴が亡くなったことで『書勢』発行が危機に陥ると、松坡先生、阪正臣、尾上柴舟ら 23 名が『書勢』継続を支援しました。

天来は大正 3（1914）年に居を鎌倉琵琶小路に移し、同 5（1916）年から約 2 年間、建長寺正統庵（院）に起居して筆法研究に没頭しました。1932（昭和 7）年には建長寺管長菅原時保のはからいで建長寺の塔頭華蔵院を復興し、鎌倉「書学院」の建設に着手します。華蔵院の隣地に書学院が完成したのは 1935（昭和 10）年 5 月のことで、松坡先生は「祝書學院落成」と題された七言古詩を捧げています。

尚、天来の妻小琴（1885～1948　本名は元子）も優れた書家でしたが、結婚前に阪正臣の内弟子だった時期がありました。そうしたことから、鎌倉では海上寿子の亀廼舎で歌を詠みました。また、松坡先生が校長を務めていた鎌倉高等女学校で習字科教授として教鞭を執っていました（1910 頃～1923）。

間島道彦墓誌銘の一部

早世した間島道彦（1897～1923）の墓誌（青山墓地）は松坡先生と天来、更に道彦の両親間島弟彦・愛子（小筠）との親しい交友を示すものでもあります。松坡撰による 118 字の墓誌を天来が書いています。

天来が亡くなったのは鎌倉書学院完成の 4 年後で、松坡先生は「哭比田井天來」を詠みました。天來は建長寺に葬られ、同寺には比田井天来を偲ぶ大きな碑（1940）も建てられています。

◎ 第2回図書館協議会傍聴報告

2021.12.23（協議会委員１名欠席　傍聴者６名）

報告事項

①議会報告

９月議会一般質問で高野議員から「図書館は潤沢な予算、立派な建物だけでなくすぐれた人材の確保が大事と思う、技術職としての司書採用が必要ではないか」との質問があり、教育長から「司書有資格者を継続的に配置し技能等の向上と継承に必要な勤続期間を確保することは重要と考えており、そのための人員体制について中央図書館を中心に具体的に検討している」と答弁されたこと、教育福祉常任委員会では TOTOMO が提出した「司書資格をもった正職員の新規採用を求める陳情」が審議され、採決の結果不採用となったが、本会議で賛成多数で採択されたことが報告されました。

その他高野議員からの「中央図書館の耐震改修工事に伴う臨時休館、資料購入費の充実」、栗原議員からの「コロナ禍の図書館の利用頻度、移動図書館の運行可能性」に関する質疑について報告されました。委員から「採択の結果、司書採用は現行の体制の中でできることはやっていくという理解でよいか」との質問が出ましたが、館長からの回答は「議会で市民の意思が示されたので、これを踏まえて市の中で対応する形になる」との発言にとどまりました。

②第4次図書館サービス計画の策定について

現行の「第３次鎌倉市図書館サービス計画」は2023 年度で終了するので、同年度中に「第4次サービス計画」を策定するが、第4次は 2023 年 4 月から 2026 年3月までの3年計画になる。期間が短いのは、第５次サービス計画の始まりを市の総合計画の始まりと合わせたいからとの説明でした。

③その他

中央図書館の耐震改修工事、大船駅西口図書返却ポストの撤去、個人情報流出（予約資料のメール連絡を別の利用者に送信し、氏名、カード番号、資料名などの個人情報が流出した）などが報告され、いずれも了承されました。

協議事項

鎌倉市図書館振興基金の活用による写真記録集出版事業について

継続審議になっていた標記事業について再提案され、近代史資料室の研究員からパワーポイントの画像を使っての説明がありました。続いて館長から「収集された古写真は基金が規定する貴重な資料に当たり、写真集としてそれを残すことは保存に当たるので、基金の趣旨に沿ったものと考える。ただ、議員からこの事業が基金条例・運用基準に沿わないのではないかという質問が出ているので、現在、役所内の法制担当に確認を求めているところだ」との補足がありました。

審議では、委員から「写真集が基金条例の貴重資料の保存にあたるということだが、デジタルアーカイブならともかく、出版・販売事業に充てるというのは条例の拡大解釈につながらないか心配だ。お金の流れについても第4条（運用益金の処理）で想定されているのは銀行口座に入る利子のことではないか」という意見が出ました。館長からは、「寄付金を基金に入れるのも、貴重資料の購入や整備のために基金を支出する場合も一般会計を経由して行う」との言及があるのみで、販売代金が基金条例のどの条文を根拠に繰り入れられるのか明確な説明はされませんでした。「売上金は必ず基金に戻るよう財政と調整している」と強調していましたが、調整が必要ということは逆に基金は出版事業そのものを想定していないことを意味しているのではないでしょうか。

他の委員から、ふるさと納税との関連や編集の仕方、本を出すより市役所移転跡に写真館ができるといいなどの意見が出されましたが、最も重要なポイントである写真集の出版が貴重資料の保存に当たるのか否かについての議論が深まる形にはなりませんでした。委員長から「議員からの質問もあり、法制的な確認も必要になっている、市民が納得する形での出版が求められるということでこの件については引き続き継続審議としたい」と提案があり、全委員が了承し会議は終了しました。

◎第3回図書館協議会傍聴報告

2022.3.22 （傍聴者 3 名）

報告事項

①写真記録集出版事業について

館長から、「前回の図書館協議会の議論を受けて関係市民団体の意見を聞く場を設けたが、基金を活用すべきでないという意見だった。2度にわたる高野議員からの文書質問でも基金の趣旨に照らして活用すべきではないというものだった。これらの経過を踏まえ市役所内関係部署と検討した結果、基金は活用せず一般財源で実施することにしたので協議事項から取り下げたい。ただし、売上金は基金に積み上げて基金のさらなる充実を図りたい。」との報告がありました。これに対し、委員からの質問や意見は出ることなく了承されました。事前に図書館から連絡が入っていたと想像されますが、今後このような問題が起きないよう会議の場で基金の趣旨をより明確化する議論が欲しかったと思います。

②議会報告

藤本議員から「『利用者が集う場としての図書館』『全ての方が本にアクセスできる図書館』を実現してほしい」、高野議員から「新年度雇用での正職員司書の採用を」との質問があり、前者については「『図書館サービス計画』のなかで目標に掲げ様々な取り組みをしてきており、今後も充実させていきたい」、後者については「新年度の採用はないが、2023 年度に向けて検討していきたい」と教育長答弁があったことが報告されました。

予算等審査特別委員会では竹田議員から写真集出版事業について質問があり一般財源で実施することを説明し、図書館の資料費の充実については「資料費は重要な経費である」と答弁したと報告されました（答弁になっているのか？）。

これについても委員からの質問、意見はありませんでした。

③新年度予算について

資料費は 2,643 万1千円で前年度と同額と報告されました。これについて「昨年度の資料費は基金の活用を前提に郷土資料購入費 65 万円分が減らされた。しかしこの活用は協議会で否認されたのだから新年度予算で復活されるべきではないのか」との委員からの問いに対し、館長は「減ったままなので今後とも確保に努めたい」と答えるのみでした。

協議事項

①第4次図書館サービス計画の策定について

事前に図書館から第3次計画の達成度と評価をまとめたものを委員に送り、委員から返ってきた質問、意見を集計した資料に基づいた図書館の説明がありました。（紙幅の関係で内容は省略）ここでは、第4次計画は3年間と短く、新規予算を必要とするような大きな目標は困難であること、第 5 次計画は市庁舎移転に伴う新中央図書館並びに新深沢図書館の具体化に向けたものになるので、その足場固めとなるよう、計画の柱を「人材の育成・確保」と「持続可能な図書館運営のための土台作り」の 2 本に絞りたい、との説明があったことのみ触れておきます。委員からの「人材の育成・確保ということで言えば司書採用はどうなっているのか」との質問には「内部調整中」を理由に館長からの具体的な回答はありませんでした。

②R3 年度重点事業の成果とR4 年度重点事業案

説明はあったものの委員からの質問、意見は出ないまま了承されました。

その他、2 月に撤去した大船駅西口返却ポストを 3 月に再設置した報告と、第 4 次子ども読書活動推進計画策定について説明がありました。後者では「計画のなかに電子書籍をどこまで導入するか」の質問に「紙資料と電子資料の組み合わせをどうするかが図書館、学校の腕の見せ所と思う」と答えていました。以上のように、図書館からの報告、説明に対し、委員からの質問、意見は少なく、審議は1時間ほどで終了となりました。もっと活発な議論がなされるような努力が求められます。　　（和田安弘）

有意義に活用されている「鎌倉市図書館振興基金」の最近の成果を、近代史資料担当の司書よりレポートして頂きました。鎌倉の貴重な宝物をぜひ図書館 HP で拡大してご覧ください！

鎌倉市図書館振興基金の最近の活用及び公開について

鎌倉市中央図書館　　中田孝信

鎌倉市図書館振興基金（以後、基金という）は、開館百周年を迎えた平成 23 年度から開始、平成 27 年７月からふるさと寄付金制度が適用されたことにより、着実に増えております。

一方、活用については、資料が一期一会の一点ものであるため、なかなか活用できていない状況がありました。そこで一昨年令和２年度（2020 年度）から、所蔵資料中の貴重資料の修復、保存処置にも活用させて頂くようにしました。同時に、いつでも、どこでも、だれでも資料を見ることができるよう、デジタル化するようにもしています。

本号では昨年令和３年度（2021 年度）に実施した３件の基金活用についてご紹介します。

①二階堂村鎌倉郡二階堂村切図 第 11 号（＊）

まず基金活用第７号は、「鎌倉郡二階堂村切図」全 11 図の購入、補修、デジタル化、及び保存箱作成です。この資料は、各図に二階堂村戸長小牧源之助の名前と明治 42 年（1909 年）８月の記載がある二階堂１番から 945 番までの彩色図で、表紙裏表紙がついた折図です。劣化状況は図により異なっており、軽度・中度・重度に応じた処理をし、中性ボード製の組立式被せ箱を作成しました。デジタル化の仕様は、データ形式 TIFF 及び JPEG 形式で、非圧縮、解像度 400dpi、24bit フルカラー、DVD-R での納品としました。（基金活用のデジタル化はこの仕様で実施しています）

② 柏尾川流域絵図〔デジタル合成版〕（＊）

次に基金活用第８号は、近代史資料室で所蔵していた「柏尾川関係資料」の補修、デジタル化、及び保存箱作成です。この資料は、「片瀬村旧名主山本家文書」として旧所蔵者の郷土史家より寄贈されていたものです。何種類かの資料がありますが、メインの「彩色柏尾川流域絵図」は大小各 10 枚、計 20 枚からなり、上流の阿久和川（横浜市）と柏尾川の合流地点から河口部までの流域を示した彩色手書き絵図です。鎌倉については植木村、関谷村、城廻村他計 12 村が、また戸部橋、町谷橋の２橋が記されています。各橋から海までの距離も記されています。図書館のホームページでは 20 枚を１枚に合成し、全体図としたものをアップしています。

③呉昌碩　篆書額「陶謝流風」　1924 年　42×162cm（＊）

④小野湖山　草書額「楽水草堂」　1901 年　39.5×114.5cm（＊）

⑤松方正義　楷書額「雪窓」　1922 年　49×115cm（＊）

最後に基金活用第９号は、「田辺松坡関係資料」全３点の補修、簡易展示可能な処理と保存箱作成、及びデジタル化です。この資料３点は、全て松坡宛の為書がある書額で、松坡の交流関係がわかる貴重な資料です。

１点目は、清代最後の文人呉(ご)昌碩(しょうせき)の篆書額「陶謝流風」です。２点目は、幕末から明治にかけて活躍した漢詩人小野(おの)湖山(こざん)の草書額「楽水草堂」です。3 点目は、元老松方(まつかた)正義(まさよし)の楷書額「雪窓」です。

これらの額を、解体し裏打ちを剥がし、ドライクリーニングをして洗浄脱酸性化処置をし、補修、裏打ち、ブックマットに固定、保存箱を作成し収納、デジタル化したものです。

コロナ禍で大規模なお披露目はできていませんが、今年 3 月の 1 か月間、中央図書館 3 階の展示ケースで展示をしました。また図書館ホームページにもアップしていますので、是非ご覧ください。

逗子開成中学校・高等学校のホームページでは、呉昌碩の書額について「松坡文庫研究会」（＊＊）のレポートが掲載されています。（2022 年 3 月 26 日付）松坡文庫研究会の活動もご覧になれます。併せてご覧ください。

【洗浄脱酸性化処置、補修の様子】
写真上 虫食い箇所の補修
下 脱酸性化処理

＊　掲載されている資料①～⑤は鎌倉市中央図書館の HP でご覧になれます。
鎌倉市図書館　https://lib.city.kamakura.kanagawa.jp/
【今回紹介の資料を見るには、ホーム画面→近代史資料室→デジタル資料→資料の種類から古典籍（或いは「絵図・地図」を選択）→集計ボタン】

＊＊「松坡文庫研究会」は、鎌倉市図書館の貴重コレクションである「田邊松坡文庫」の整理と研究を進め、その存在を広めることを目的に活動しています。
（事務局：中央図書館）

・逗子開成中学校・高等学校「松坡文庫研究会」
https://www.zushi-kaisei.ac.jp/news/cat26/

・P8～9　画像提供：鎌倉市図書館

第３９回 映画と本と図書館と

『ストーリー・オブ・マイライフ／ 私の若草物語』

（原題：*Little Women*）

（2019 年・アメリカ合衆国制作／監督：グレタ・ガーウィク ）

コロンビア映画配給（日本公開 2020 年）

「かまくら銀幕上映会」ナビゲーター　　田邊 恵美

この作品をここで取り上げます！と宣言してから、何と長い月日が流れたことか…。いえ決して他の映画に比べて遜色あるからではありません。この作品こそ、王道中の王道です！豪速直球を投げ込む前に、何種類か変化球を投げてみたかった心地とご理解ください。

これが 6 度目の映画化の『若草物語』は、3 度映画化された谷崎潤一郎の『細雪』同様、四姉妹が登場するので（ストーリーは全く違うが）、当世のトップ女優達が共演する誠に華やかな作品となり、間違いなく、これから先も新しい映画化が出る事でしょう。

久々に原作を読み返しました。子どもの頃に読んだ時は、登場人物も少なく摩訶不思議な展開がある訳でもない為、古典的な女性小説という印象を持ちました。が、交通網がもう宇宙まで？届く勢い、尚且つインターネットで通信網情報網も格段に進んだ今でも、書き込まれた登場人物の思う事、考える事には共感できる部分も多く、そうした本だからこそ、時代を超えて幾度もの映画化になるのだと納得します。

この映画最後の方で初めてジョーの本が刊行される、となり、布装丁本に金文字が押されるシーンには、なんともしれん感慨を覚えます。今、もし出版したいと思えば、電子書籍の方が紙で出すより安く出来ます。電子書籍は web 上のデータ、ですが、ヒットして話題になると紙で出版という流れを見ると、やはり『本』というものは 21 世紀の今、更に特別な存在になってきたのかもしれません！

かまくら銀幕上映会のお知らせ（主催：ドリーム・アーツ（03-5969-8081）於：鎌倉芸術館小ホール

6/ 7（火）『ダ・ヴィンチは誰に微笑む』　　6/21（火）『天才ヴァイオリニストと消えた旋律』

7/ 5（火）『クレッシェンド 音楽の架け橋』◎前売り券：1000 円（当日券：1300 円）　◎上映時間①11：00～ ②14：00～

☆上映スケジュールの確認は、鎌倉芸術館（0467-48-5500）へお問い合わせください。
☆受付で「田邊さんから聞いた」とおっしゃっていただければ、前売り料金でご覧いただけます

☆ TOTOMO 関連の雑誌記事＆会員執筆記事紹介 ☆

＊「としょかん」160 号（としょかん文庫・友の会発行 2022 年 2 月 1 日）トップページで当会の活動が紹介されています。
『図書館とともだち・鎌倉「司書資格を持つ正職員の新規採用に関する陳情」が市議会で採択される』

＊「みんなの図書館」538 号（教育史料出版会発行 2022 年 2 月号）
『鎌倉での司書の新規採用を求める市民運動を報告します』（TOTOMO 代表・和田安弘）
…同誌には、鎌倉市図書館司書・中野陽子さんによる「正規の司書採用をするために労働組合ができること」も掲載されています…

＊「みんなの図書館」541 号（教育史料出版会発行 2022 年 5 月号）『「鎌倉市図書館振興基金条例」のこと』（阿曾千代子）

☆上記掲載雑誌は鎌倉市の図書館で借りられます

ボランティア連絡協議会報告　（4～ 5月　於：福祉センター）

4月7日に会計監査を行いました。14日の役員会では総会資料を作成、翌週21日の委員会で内容を審議しました。またこの日に推薦委員会が発足し、今年度の役員選考に取り掛かることとなりました。

制作中の七夕飾り

グループの枠を越えて誰でも参加できるボランティア倶楽部はこれまで不定期に実施していましたが、今年度から原則毎月最終木曜日に行なうことになりました。主に高齢者施設等で使用するためのウェス作り等を行っていますが、その時々に必要なお手伝いに取り組みます。今年度最初の活動日4月28日には、鶴岡八幡宮より七夕飾り制作のご依頼をいただきました。6月下旬までの短い期間ですが、作業所の方々にもご協力をお願いして取り組むこととなりました。

5月12日の役員会では､先に行ったボランティアセンター登録グループ対象のアンケート結果を元に、今年度の研修についても話し合いました。関心の高い項目はいくつかありましたが、そのうち「地域防災」は必要性も高いことから、来月、関連団体とも相談して進めていくことになりました。

19日は書面総会でした。61グループ中50グループから回答があり、役員選任を含む全ての議案が承認されました。この結果は各グループ宛に葉書でお知らせしました。　（黒瀬聖子）

協働事業推進部会報告　（4月8日　5月20日　於：NPOセンター鎌倉）

◎4月8日　第1回(出席者：部会員6名、NPOセンター理事長　計7名)

◎5月20日　第2回(出席者：鎌倉市地域のつながり課2名、部会員4名、NPO理事長、副理事長　計8名)

「スタートアップコース」
市の負担金：上限10万円
応募締切り：5月27日
プレゼン、審査、選考：6月下旬
事業期間：2022年8月～2023年3月

「協働コース」
市の負担金：上限50万円
応募締切り：6月24日
プレゼン、審査、選考：9月下旬
事業期間：2023年4月～2024年3月

広報かまくら4月号で【地域課題を解決する提案を募集「つながる鎌倉エール事業」】として今年度から「協働コース」と「スタートアップコース」の2本立てで行われることが発表されました。「スタートアップコース」は設立3年以内の団体を支援する目的で新たに設けられました。4月16日に説明会が開かれ、当部会員4名も参加し、説明の後の相談会に対応しました。「協働コース」は従来の相互提案協働事業を見直したもので、応募前の提案書の事前確認と相談はNPOセンターが担うことになります。本事業についての詳細は、鎌倉市HPでご確認ください。　（黒瀬聖子）

鎌倉市／つながる鎌倉エール事業（スタートアップコース・協働コース）（city.kamakura.kanagawa.jp）

◇ ◇

ＴＯＴＯＭＯ活動日誌（3/31～5/25）

4/6　間島弟彦・間島愛子夫妻　旌徳の会
4/13　栗原新館長へのご挨拶
4/21　おはなしひこうせん勉強会
4/22　「西鎌倉ぽっけ」でのおはなし会
4/22　読書会
4/27　ﾌｧﾝﾀｽﾃｨｯｸ☆ﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ110実行委員会
5/15～6/19　図友連通信総会
5/18　栗原館長・浅見館長補佐との懇談
5/19　おはなしひこうせん勉強会
4/7, 14, 5/12, 19　ボラ協議会役員会出席
4/8, 5/20　協働部会出席

ロビー活動　随時
定例会7回（4/6, 13, 20, 27, 5/11, 18, 25）

◇ ◇

TOTOMO COMING NEXT！　事務局からのお知らせ

新緑から雨の季節へ、自然はいつもと変わらず移ろっています。暗いニュースの多い昨今、図書館で本を読んで心の平静を保ちたいと思います。

おはなしひこうせん勉強会

日　時：　６月１６日（木）９時半～１１時半　　場　所：深沢学習センター３階ホール
テーマ：　本の海サポーターズ交流会（手話による絵本の読み聞かせと障害福祉サービスのお話ほか）への参加
※６月の勉強会の日と交流会の日が重なったため、交流会への参加を勉強会の代わりとします。
申し込みは各自で深沢図書館（電話 0467-48-0022）へ。
日　時：　７月２１日（木）１０時～１２時　　場　所：福祉センターにて
テーマ：　バリアフリー　（様々なバリアを理解し、乗り越えるための絵本などをご紹介ください。また、今年度のＦ☆Ｌの取り組みについて話し合います）
お問い合わせは、黒瀬（TEL/FAX　０４６７－２２－８５４５）まで。

読　書　会

日　時：　６月２４日（金）１１時～１２時半　　場　所：ＮＰＯセンター鎌倉にて
テーマ本：イタロ・カルヴィーノ著『見えない都市』（河出文庫）と小林秀雄著『モオツァルト・無常という事』（新潮文庫）です。
お問い合わせは、杉崎（TEL/FAX ０４６７-４１-４９５６）まで。

間島弟彦・間島愛子夫妻　旌徳の会

日　時：　６月１日（水）１３時半～１６時半　　場　所：ＮＰＯセンター鎌倉にて
お問い合わせは、鈴木（TEL　０９０－４７２８－５２４２）まで。

※上記の各会については、ＣＯＶＩＤ－19 感染の状況により、変更になる可能性があります。
参加される方はＴＯＴＯＭＯのＨＰやＦＢでご確認いただくか、お問い合わせください。

☆図書館友の会全国連絡会

◎5 月 15 日～6 月 19 日の日程で通信総会が行われています。内容は、会報 214 号で報告いたします。
◎図友連では、『「ツタヤ図書館」の“いま”―公立図書館の基本ってなんだ？―』3 版を令和 4 年 5 月 1 日に発行しました。このパンフレットは、「ツタヤ図書館」がなぜ今全国的な問題になっているのか、これまでの経緯と現状を分かりやすく伝え、その問題性をより深く理解するための一助となることを願って作成されました。賛否両論渦巻く「ツタヤ図書館」が全国の自治体に広がる中、公共図書館の存在意義だけでなく、地方自治体の在り方そのものが問われるまでになりました。同パンフレットが一人でも多くの皆様に伝わりますよう願っています。
まもなく図友連 HP に、掲載内容の元となる『出典・参考集 』とともにアップされる予定です。図友連の活動と併せてご覧いただければ幸いです。
※「図書館友の会全国連絡会」ホームページ　https://totomoren.net/
お問い合わせは、阿曾（TEL/FAX：0467-45-5731）まで。

編集後記　＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

☆ファンタスティック☆ライブラリー110 の報告はいかがでしたか。来年は、おはなし会や講演会ができるようになるといいなと思います。(A.S)
☆今回は、図書館振興基金についてのお話も。図書館 HP では更に詳細情報が見られますよ(M.S)

題字・巻末カット：小島寅雄　　2022 年 5 月 25 日発行
図書館とともだち・鎌倉（代表：和田安弘）編集：阿曾・黒瀬・目黒・杉崎・斉木
事務局：〒248-0005　鎌倉市雪ノ下 1-14-34（黒瀬）TEL/FAX 0467-22-8545
ＨＰ：http://totomo.sakura.ne.jp　E-mail：toshokantomodachi@gmail.com